



4月号

ステパノだより

No.296

「思いやりの心」

理事長 戸井田 和彦

昨年の六月に聖ステパノ学園に着任してから、私は日々、子どもたち、先生たちの中に息づく「思いやりの心」に深い感銘を受けています。友だちの気持ちに寄り添い、困っている人に自然に手を差し伸べる姿は、まさに本学園の大切な財産です。

私が常々大切にしているのは「共感力」です。相手の立場に立ち、その思いを理解しようとする力は、人と人をつなぎ、社会に温かさや信頼をもたらします。本学園の子どもたちは、すでにその芽をしっかりと育んでおり、これをさらに伸ばしていくことが、これからの教育において極めて重要だと考えています。この共感の心はイエス・キリストの「隣人を自分自身のように愛しなさい」という教えに通じています。他者を自分と同じように大切に思う心こそ、人間としての根幹であり、本学園の教育理念の礎でもあります。

新しい一年、先生たちは子どもたち一人ひとりにより深く向き合い、子どもたちは互いを尊重し合い、保護者の皆さまとも心を通わせながら、共に成長する学園を築いてまいります。共感の輪を広げることで、より豊かな学びと温かな社会へとつながることを願っております。本年度もどうぞよろしくお願ひ申し上げます

校歌

校長 上戸 基夫

聖ステパノ学園の「校歌」は一番から五番まであります。創立者澤田美喜の学園に対する想いが詰った言葉が並びます。私はその中でも特に四番が好きです。

『世の国々の神を知る 良き友達の祈りにて 学びの庭の明け暮れは やがて世に立つ 備えなり』

自らが大切にしているものを前面に押し出すのではなく、様々な人々が大切にしているもの「知る」こと。敢えて違うものも受け入れるという行為に、学校として、また人間としてとても大切な意味が含まれていると思います。

とかく現代は、自分の考えを前面に押し出すこと、自分の考えで論破することが正しいとされます。しかし、本当の対話は、相手の考えや想いを「知る」ことの違いを「受け入れる」こと、そこから対話を作り上げていくことが必要なのではないのでしょうか。

詩編の一節に「主の教えを喜びとし その教えを昼も夜も唱える人。その人は流れのほとりに植えられた木のように。時に適って実を結び、葉も枯れることがない。その行いはすべて栄える。」とあります。

新しい年度が始まります。「世に立つ備え」を、子ども達一人ひとりと共に、しっかりと育むことができる日々になりたいと思います。

春とともに

事務長 佐藤 雅美

学園内の環境は、空師の方に手を入れていただいてから五年近くが経ち、森の様子にも変化が見られるようになりました。森の中には多くのもみじがあることに気づき、これまでに他の樹木に隠れていたその姿が、やさしく見えるようになりました。枝から葉へとつながる自然のやわらかさや、春の若葉の若草色は、あたたかさや明るさを感じさせ、新しい始まりをそつと後押ししてくれているようです。

あらためて国語辞典で「年度」を調べてみると、「事業などの区切りとして設けられた一年の期間」とありました。教育もまた社会の中で営まれているものであることを思えば、年度の節目に別れや新たな出会いがあることも、あらためて自然なことのように感じます。すべての大切なものは世界からの預かりもの。物事にはそれぞれにふさわしい時があり、目に見える変化の奥にも、静かに育まれている時間があるように思います。だからこそ歩みを急がず、まわりの景色に目を向けながら、一つひとつを大切に、丁寧に歩いていきたいと思えます。

今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

安心地帯

小学校教務主任 赤田 祐章

二月・三月の大斎節中、火曜日・金曜日の礼拝を聖ステパノ学園では小学校・中学校合同で行います。聖歌練習の木曜日を合わせ、週に三回、海の見えるホールに向かうために岩崎山をのぼります。

今年には花の咲く前から、鳥の鳴き声で山が賑わっていました。足を止めて耳をすまし、鳴き声の種類を子どもたちと一緒に数えてみると、

「一つ、二つ、三つ、四つ…」

空師さんによる山の再生が進んでいるので、確実に岩崎山にやってくる鳥の数が増えていることに気づきました。桜の花の蜜を吸うメジロ、鯉が泳ぐ池に水を飲みに来るイカル、ロング坂をピョンピョン跳ねるイソヒヨドリなどなど。野鳥が安心して羽を休めることができる、生物多様性の環境が少しずつ整ってきていることをうれしく感じます。

さて二〇二六年度は、一年生と二年生の副担任を務めます。子どもたちと一緒に学び、一緒に遊び、一緒に食べることで、学校は楽しいところであり、何度でもチャレンジができる場所であり、心を休めることができる「安心地帯」であることを、子どもたちに伝えていきたいと考えています。



教わる

教諭 飯田 裕美

祝会での中学校劇で指揮を取らせて頂くこと、昨年度で四回目となりました。演劇に全く関わってこなかった私ですが、ステパノで尊敬する先輩の下、劇の素晴らしさを教えて頂きました。四年前、そのご意思を引き継ぎたいという思いからスタートしましたが、子どもたちや先生方から感動や喜びを味わう機会を毎年頂いてきました。しかし、昨年度は私自身も指導への葛藤がありました。子どもたちの全力を出したい、観て下さる方々にステパノっ子たちの凄さを、素晴らしさを伝えたい、でも……。そんな揺らぎの中、一人の生徒がある朝私を走って追いかけてきて、「自分たちがこれだけ真剣にやっていると、先生はどうして真剣にやってくれないのか」と生徒なりの言葉で伝えてきました。衝撃が走りました。揺らいでいる時点で私は子どもたちに何て失礼なことをしていたのかと反省と共に、生徒から教わるとはこのことかととても嬉しく感謝しました。「教わる」ことは年齢、間柄関係なく、信頼関係や相互成長のプロセスなのだと痛感した出来事でした。そして、今年度は中学二年生の担任を受け持たせて頂く中で、きつとたくさん教わること、学ぶことがあるとと思いました。そんな日々を感謝しながら一年間過ごさせて頂きたいと思えます。

新年度の抱負

非常勤講師 石川 篤

昨年度は、一学期はドキドキ、二学期はドタバタ、三学期はアツという間に、周りの教職員のみなさん、生徒のみなさんに助けていただきながら事故や怪我もなく進めることができました。「ひきだし」は上手に創ることができたでしょうか？

今年度は、生徒みなさんの「ホントの声」に耳を傾けることに注力していきたいと思えます。

「正解」を出すこと、「はやく」やること、「きれいに」やることに頑張っている姿が多く感じしたのですが、「間違い」、「じっくり」、「失敗」に頑張っている姿を余り見ることができず、きつと、余裕や余白のない接し方になっていたのかもしれない。

心のなかにある「ホントの声」を聴くように安心して間違いに「気づき」、じっくり「考え」、失敗を「楽しむ」ことができる。そんな空間を創っていきます。

加えて、大きく変わる新しい指導要領の情報を集め整理・準備していきたいとも思っています。

今年度もよろしくお願いいたします。

ネガティブ・ケイパビリティで行こう

スクールカウンセラー 井島 素子

「チャッピーが優しく泣けそう」友人が言うところによると、生成AIは、以前質問した内容や家族の状況まで網羅した上で、投げかけられた問題に即座に最適解を教えてくださいというのです。その情報解析力と反応スピードに加えて、友人の心情を労ったフレーズにも彼女は感心したそうです。

そんなAIとは真逆の考え方「ネガティブ・ケイパビリティ」に価値を感じます。ネガティブなことを受け止め、焦らずあきらめずに持ち続けていく力です。

人間の脳はもともと「わかりたがる癖」を持っていきます。問題があった時には、自分なりの理屈やわかりやすいルールで納得し、なるべく早く「解決した」と安心したいものなのです。だからこそ、たとえネガティブな時でも解決を急がず、問題に向き合う力、答えが出ないことに耐える力が人間の底力だと思っています。結論が容易には見えない問いを、考え続けるには能力が必要です。生成AIのように瞬時に答えは出せなくても、一緒に考え一緒に迷い、苦しくても耐え抜く。そんなカウンセラーになりたいです。

今年度も火曜日、金曜日の週二回学校に来ています。よろしくお願いいたします。

出会い

非常勤講師 草山 広子

私は、聖ステパノ学園を退職して、五年目になりました。この度、縁あって、中学校二年生と三年生の国語を、一年間担当することになりました。

私は、昨年一月から今年の二月まで、九十五歳になる母の介護をしていました。毎日が一喜一憂で、戸惑いの連続でした。そんな時、担当のケアマネジャーさん、訪問看護師さん、ヘルパーさんにどれだか助けられたかわかりません。

先日、第六十七回聖ステパノ学園卒業礼拝式があり、久しぶりに出席しました。卒業生が、賛美歌とともに、堂々と頼もしい姿を見て、胸が熱くなりました。小学六年生は、一年生と二年生の時に担任した学年です。一年生の時は、コロナ渦で、入学式が六月になってしまい、二年生のときは、大好きな中村先生とのお別れがありました。晴れの日、逞しく成長した子どもたちを目の前にしたら、喜びでいっぱいになりました。

今年度の中学三年生も、小学校生活の一、二年を、一緒に過ごしました。今ここで再び出会うことができますことを、心より感謝いたします。楽しく笑顔の国語教室になりますように、精一杯頑張ります。どうぞよろしくお願いたします。

新年度の抱負

庶務 小出 初美

ご入学・ご進級おめでとうございます。学校の桜が咲き始め、また新しい一年が始まるのですね。

聖ステパノ学園に勤務して今年で八年目にはいりました。とても小さかった一年生も大きくなり、子どもたちの成長を見守ることが何よりも楽しみです。

仕事ながら、なかなか子どもたちと接することは少ないのですが、昨年は一緒に給食を食べる機会もありました。

今、夢中になっている事、嬉しかった事などとても話が弾み楽しい一時をすごす事ができました。

今年一年、また子どもたちの成長を見守りながら仕事をがんばっていききたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。



改めて「感謝」申し上げます

教諭 河野 達

昨年度は、小学校教員として初めて主担任としてクラスを運営させていただきました。慣れない部分もたくさんあり、いろいろな場面でご迷惑やご心配をおかけしたことをこの場をお借りしてお詫び申し上げます。

小学校のクラス運営では、中学生や高校生に接するのは違う大変さを経験させていただきました。日々悩みながらのクラス運営でした。しかしながら、それと同時に、前任校とはまた違った楽しさを味わえたことも事実です。どちらも私にとつても貴重な経験で、このような経験をさせていただけたことに改めて感謝申し上げます。

昨年度の学級通信のタイトルは『感謝』とさせていただきます。常に感謝の気持ちを持ちながら生活してもらいたいという思いを込めてのタイトルでしたが、この1年間を振り返ってみると、最も感謝の気持ちを持って生活しなければいけないのは私自身でした。

保護者の方々のご協力に感謝、聖ステパノ学園の環境に感謝、先生方のサポートに感謝、そして何よりも子ども達の笑顔に感謝…。

今年度もたくさんの「感謝」を感じながら一生懸命に邁進していきたいと思えます。そんな思いを込めて今年の学級通信のタイトルも『感謝』にさせていただきます。

教諭 根田 栄子

教諭 近藤 穂佳

非常勤講師 齋藤 央

今年度は、中学1年の副担任と、小学校の音楽専科を担当させていただくことになりました。内部進学生の皆さんとは小1の頃から音楽の授業で関わってきましたが、今年は副担任ということで：今までは見えていなかった面をたくさん見つけていきたい！と思っています。

中学校から入学の生徒達も、体験の三日間で出会った個性豊かな皆さんに、より良く成長してもらえよう考えつつ、クラス全体をサポートしていきたいと思います。

音楽の授業は、昨年度と同じ学年を担当させていただけるので、能條先生とも協力しながら、もっと楽しく音楽を学べるよう、工夫して行きたいと思っています。フラッシュカードを使った読譜指導やリトミックを使ったリズム指導など、楽しくやっています。長期目標の書道の方は：遅々たる歩みではありませんが、つい先日三段に昇段し、同時に『高等師範免許状』をいただくことができました。次は四段への昇段と『正師範』（三段までの成人を教えることができる）を目指します！

今年度は父の介護との両立の為、ご迷惑をおかけしてしまう場面が増えてしまうかもしれません、どうぞよろしくお願い致します。

タイトルの言葉は、私が通っている茶道教室のお茶室に掛かっていた掛け軸の言葉です。『春風花自開』は、春の風が吹けば花が自然と咲くように、物事もそれぞれのタイミングで花開いていくという意味を持ちます。

さて、私自身もこの1年で茶道という新しいことに挑戦しました。正直、1年も続くとは思わなかったのですが、自分でもびっくりしています。茶道はただお茶を点てるだけではなく、所作、季節のしつらえや道具の扱い方など、一つひとつに意味があり、その奥深さに触れるたびに心が整っていくようでした。気づけば1年続いています。無理に頑張ったというより静かな時間の中で心がほぐけ、自然と続いている感覚でした。

そして今年度、私は3年生を担当します。社会、理科や英語など新しい授業が始まります。子どもたちはこれからたくさん「はてな」に出会います。その一つひとつに一緒に向き合い、みんなで「わかった！」という花を咲かせていきたいと思っています。春の風のように、あたたかく、のびやかに。子どもたちと一緒にたくさん花が開く1年にしていきます。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

初めまして。四月から英語科の非常勤講師として着任しました、齋藤央（たかし）と申します。新しい学校で皆さんと英語の勉強ができることを楽しみにしています。海が見える素敵な教室と一緒に勉強できることを嬉しく思います。

私が中学生になった時、今までとは違って電車は大人の料金になったり、学校も新しいお友達との出会いがあり、新鮮な気持ちになったことを思い出します。

桜の花も満開になり、新鮮な気持ちで新たなスタートをできることは、とても幸せなことだと思います。

私は詩を書くことが好きです。以前書いた「心配り」という詩の一部を書いてみます。

『心配り美しい言葉ではないか 温もりを箱に詰めて 宅急便で届けるような気安さが好きだ（中略） さりげなく しかも故意ではなく 焼きたての洋菓子のような柔らかさと甘さをたたえる言葉 形のない愛のおすそ分けとでも言おうか』

人間はひとりでは生きられません。周りの人、お友達や周囲の人たちに心配りができたら素敵だなんて思います。

皆さんと楽しい時間を過ごしたいと思えます。よろしく申し上げます。

最近絵の具を使う機会があり、改めて色が持つ魅力に気が付きました。絵の具の原色はそれ自体とてもきれいな輝きを放っています。そこに別の色が加わると更に味わいのある色に変化します。これは人と人との関係性にも言えることだと思います。

私達は神様に愛された存在として、一人ひとりがすでにかけがえのない存在です。そして、聖書にはイエス様が多くの人と食事をする場面が書かれています。それは、相手を家族として受け入れる信頼の証であると共に、他者との交わりによって人はより豊かになり、そのような交わりを通してこそ、神様の望まれる世界が実現するからです。

子どもたちにはそれぞれ原色の美しさと共に様々な変化をしていく無限の可能性があります。それを引き出すのが自分以外の誰かとの交流です。自身が持つかけがえのない色と他者が持つ各自の色が交わりあつて、より豊かな自分色を作り出すことができます。その一人ひとりの色合いが調和して一つのクラスの色となります。教員として、まずは子どもたちそれぞれの自分色を大切に、子どもたち自身も相手を大切な存在として受け入れられるように向き合ってください。今年度もよろしく願いいたします。

春特有の景色、日差し、香りに包まれると、新しい日々と出会いへの期待と、思い出が過去のページに仕舞い込まれる名残惜しさに、少しだけ胸がキュットするような感覚になります。二年ぶりのステパノは、変わらないもの、新たにされたものがどちらも織り交ざつて、新年度の輝きを放っていました。三年前の春にステパノを離れてから、自己研鑽を積み日々の中でいつも私の心の中にはステパノの子どもたちの笑い声が響き、祈りに導かれていました。変わらないもの、変わってはいけないものは、この子どもたちの純粋な声です。世の中がものすごい速さで変化しても、変わってはいけないものを守る手段はただ一つ。ステパノでは、それを聖書の御言葉に立ち返ることだと考えています。御言葉は、すべての物事を判断する基準で、誤りのない神様の真理の言葉なのです。簡単に言えば、それは「イエス様ならどうするだろう？」と想像することと言えるでしょう。

『：あなたがたの教師はキリスト一人だけである。』マタイ二三章十節

自分の驕り高ぶりに身を任せず、常に御言葉を心に持ちつつ、謙り、平安で、子どもたちや保護者の皆様との心に寄り添って精進していけたらと思います。宜しく願いします。

冬には蕾を蓄えていた桜が、4月になると子どもたちの進級・進学を祝うかのように、たくさんのお花を咲かせました。今年は2年生の担任を務めます。昨年度は小6担任として卒業生を送り出しました。卒業生の中学校での活躍も楽しみにしつつ、今年度は新2年生の2人との生活を楽しくしようと思います。

小学校6年生の担任から小学校2年生の担任に変わるの、実はステパノでの教員生活の中で2回目です。初めての時は、気をつけていながらもついつい2年生には難しい言葉や長い文で声掛けしてしまつて、当時の2年生にキョトンとした顔をさせてしまったことを覚えていきます。

十一年間で学んだ沢山の言葉を用いてコミュニケーションする6年生とは違い、2年生は言葉を少しずつ覚えながら、コミュニケーションをしていると思います。上手に言葉で伝えられるものもあれば、何だかモヤモヤするけどどうも言葉にできないもの、自分でも無意識に表情や仕草に出ているもの：きつと2年生の子ども達は、言葉だけでは出てこない気持ちをたくさん抱えていると思います。

新年度は、子ども達のそんな気持ちを大切にしながら、子どもたちの笑顔がたくさん咲くようなクラスにしたいと思っています。

抱負

養護教諭 清水 花葉

前職は、子どもの命に関する選択に携わることが多い仕事でした。究極の選択だなと感じる場面も少なくなく、何が正解か分からず悩むことだらけでした。そんな中で一緒に働くある医師は、専門的な助言に加え、「私にも子どもがいます。もし自分の子どもだったら：〇〇を選びます。」と真剣に話をしてくださいました。

『もし自分の親だったら』

『もし自分の配偶者だったら』

『もし自分の子どもだったら』

その時から私は、持てる知識を全て使ってもどうしても判断に迷ってしまう場合は、相手が自分の大切な人だったらどうするだろうと考えるようになりました。そうすることで、以前より自分の選択に自信を持つことができようになったと思います。

最近、普段の人との関わりにおいてもこの考えを大切にするとよいのではないかと感じています。聖ステパノ学園の児童・生徒は、以前から私が大切に想う子ども達です。それをさらに自分の子どものように考えると、いっそう想う気持ちが増します。今年度はより真剣に子ども達を想い行動していきたいです。

新年度の抱負

庶務 新庄 主来

私の今までの歩みを振り返ると、全てが恵みでした。

事務で児童・生徒と接する機会は少ないのですが、その中でも教えられることがたくさんあります。特に、純粹に心から礼拝している姿や先生との関わり方を見ていると、「聖ステパノ学園は土台にみことばがあるので、子どもたちも安心して素直に成長できる環境にある」と。

私もクリスチャン家庭で育ちましたので、「聖書」という決して変わることはない存在の大きさを、改めて実感させられております。「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたも悔い改めて子どもたちのようにならない限り、決して天の御国には、入れません。だから、この子どものように、自分を低くする者が、天の御国で一番偉い人です。」と聖書に記されています。

「私自身も子どもたちに倣って、みことばに固く立ち、みことばに従って歩む者となり、主の栄光を現してあげたらと祈っております。新年度もよろしくお願いします。」

大切な姿勢

小学校教頭 高橋 謙二

今年度もよろしくお願いいたします。

昨年度は聖ステパノ学園の再生を決意し一年間学校生活を送ってきました。久しぶりに管理職という立場で学校に携わってきましたが、学校全体では様々な問題と課題を確認し自分自身と学校を見つめ直す年となりました。学校という場は、様々な学習活動を通して、子どもたちに、どの様な生き方が自分らしい生き方なのかを一緒に考え導く場であり、それには教職員、保護者の皆様の人として生きる姿勢が見本となります。学校では私たち教職員が、素直でいること、自分の感性を大切にすること、理屈で綺麗にまとめ逃げないこと、誤魔化さないこと、決まりや規律にこだわり過ぎないこと、上辺だけよく見せようとしないこと、自分ができないことを子どもに言わないことなどを意識して、教職員が自分らしく、自分を認め表現することが必要です。また、子どもたち、保護者の皆様と心を許し本音で語り合える関係になれることもとても大切なことです。そのために私たち教職員が謙虚な姿勢で、日々自分と正直に向き合い、見つめ直す柔軟な姿勢を常にもたなければなりません。一年後の聖ステパノ学園がどのような変革を成し遂げているのかとても楽しみです。保護者の皆様、またステパノにかかわる皆様ご協力お願いいたします。

新年度の抱負

教諭 高橋 れみ

はじめまして。今年度より、聖ステパノ学園でお世話になります。高橋れみと申します。私は昨年度、この学園で教育実習をさせていただきました。その中で、豊かな自然に囲まれた学園で、子どもたちが笑顔で駆け回り、学年を超えて助け合う温かい姿が印象的です。また、初めて出会った私にも気さくに声をかけてくれて、関わっていく中でたくさんの元気をもらいました。

自然に囲まれたこの学園で、のびのびと学ぶ子どもたちの姿にはこの場所ならではの魅力があると感じました。

実習を終える頃には、「またこの場所に帰ってきたい」と思うようになっていました。そして今、こうして再びこの学園で過ごせる事を大変嬉しく思っております。

これからは、子どもたち一人ひとりの言葉に耳を傾け、寄り添いながら安心して過ごせる場を作っていきたいと思えます。そして、日々の中で子どもたちと一緒に笑いあい、成長していきたいら嬉しいです。

まだまだ未熟ではありますが、子どもたちの笑顔を大切にしながら、全力で努めてまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

新年度の抱負

中学校教頭 田中 圭史

今年度は新入生11名を迎えて中学校をスタートします。

子どもたちへのかかわりの前に、まず自身学びを充実させていきたいと考えています。教科にかかわることだけでなく、裾野を広げ、広く見渡せるように心がけていきたいと思ひます。

さて中学校では全体で42名という少人数ではありますが、それは一人ひとりに役割が与えられるということです。クラスでの生活だけでなく、委員会や部活動、学校行事にいたるまで、これをやってみようと思うことが行動につながる環境です。教室の中のこと、行事においても小さなことから取り組み、自信につなげていってほしいと願ひいたします。同時に、一人ひとりの責任も大きくなります。責任をもってやり遂げる、協力して支えあう、それが大きな成長につながるような一年としたいと考えています。

また、教員間の連携を密にし、丁寧なかかわりを心がけてまいります。複数の目で見守りながら、子どもたちが見せる様々な顔を共有していきたいと思ひます。

どうぞよろしくお願ひいたします。

新年度の抱負

養護教諭 土橋 久美子

今年度も小学校保健室を担当させていただきます。小学校保健室は、中学生も小学校校舎やグラウンドで活動した際の怪我や体調不良の時に使用できますので必要に応じて利用してください。

さて、学校における保健室の在り方や使用のルールは教室とは少し異なります。保健室にいる養護教諭は担任や副担任、教科担当と違う免許を持ち異なる視点で子どもたちと関わっています。ともすると自分の専門性や考えが強く出ることもあります。あくまで聖ステパノ学園として、全体の中で適切に機能していることが大切だと感じています。そこで、今年度は特に学校全体の活動を俯瞰して見ることが心がけ、その中で自分の働きが学校全体のバランスを欠くことのないように、保健に関することは知識を深めていき、担任への情報提供や連携を円滑に行うこと、また子どもたちを取り巻く環境や社会の中で求められる役割にも目を向け、視野を広げて様々な角度から物事を見て子どもたちに還元していきたいと考えています。

子どもたちが教室で元気に過ごせるように支えていきたいと思ひます。今年度もよろしくお願ひいたします。

校務 飛田 裕二

日本最南端の駅を降り、車で十五分の場所にある、平和祈念展望台にきました。丘を登ると両脇に石灯籠が並んでいます。階段を上ると殉難鎮魂碑が鎮座して、その後ろに回ると海が見える、この場所から二百km海を進んだところに戦艦ヤマトが沈んでいます。いったい戦艦ヤマトのことをどれだけ知っていますか？私は詳しく知りたくて、この場所へ来ました。いざ岸壁の上に立ち海を見ながら目を瞑ると英霊達の声が聞こえてきそうでした。昭和二十年四月七日十四時二十三分海に沈みました。海に向かい手を合わせお祈りをして深々と一礼をしてこの場所を後にしました。次の地へ新幹線を降り目の前のフェリーに乗り大津島にある馬島(回天の島)そうです、人間魚雷の回天です。知っている方はどれだけいますか？私も勉強のために来ました。全長約十五mの長いロケットの形をした筒状の物体に乗り込み海の中を敵艦目掛けて体当たりするのが回天です。ここには、回天記念館があり詳しく拝観することができます。どれも興味がある方は行って見て下さい。船員達の最後の手紙を読めば人生が変わると思います。真実の愛を学べるころでもありません。今の幸せが何故有るのか、平和がどれだけ幸せなのか永遠に心に刻みたいと思います。

教諭 難波 寛

昨年1年間は久しぶりに担任として、中学2年生(新3年生)と1年間生活をさせてもらいました。忙しい日々でしたが、中学生の皆さんの言葉に励まされ過ぎてきました。様々な言葉をもらいましたが、私にとって一番素直に嬉しかったのは「数学が楽しい。」という一言でした。

実は私も学生時代に挫折を経験しました。進学した大学で、1回目の授業から数学が全く理解できなかつたのです。「なんてつまらないものなんだ。」と感じていました。4年目になって教授の研究室に入りました。数学の専門書を読んで一人ずつ発表をします。そこで、先生から「こういった場合はどうなの？」と質問があります。最初は煩わしいなと感じていましたが、それを詳しく調べてみると新しい発見があり、数学の面白さに気づくことが出来ました。

数学は答えが求められないと、とてもつまらない学問に感じます。でも、答えが求められたときの経験は誰にとっても大切だと思います。よく考えてそれでもわからない場合は、いったん考えるのをやめるか、先生に相談するのはいかがでしょうか。答えが求められた時は、きっと自分の成長を感じられます。

教諭 西村 哲臣

みなさんは神様にお願いをしますか？私は自分勝手なお願いをよくしています。

「宝くじが当たりますように」

「美味しいお店が見つかりますように」

「おこづかいがふえますように」

けれどもある時ふと考えました。日本全国、世界中の人が神様に自分勝手なお願いをしたら神様も大変じゃないかな？そう考えました。そこで、私は神様に自分勝手なお願いをするのではなく神様と会話をすることにしようと思いました。

「今日一日どうでした」とか。

「明日はこんなことをしていきます」とか。

「これからこんなことを頑張っていきます」とか。

「どうぞ見守っていてください」とか・・・

心の中で唱え、お話することになりました。

今年度大切にしたいこと、勝手なお願いを神様にしないということにしました。

「一生懸命がんばります。」

「見守っていてください。」

「いつもありがとうございます。」

そんな自分の言葉で神様とお話をしながら、今年度は過ごしていきたいと思えます。

新年度の抱負

中学校教務主任 二椛木 健太

私の好きな言葉の一つに「凡事徹底」という言葉があります。意味は当たり前のことを徹底して取り組んでいくという意味です。子どもたちによく話をしますが、学習面も生活面も日々の積み重ねが大切です。平凡なことは退屈に感じ、単純な作業になりがちですが、日々の積み重ねを続けていくことは大きな力になっていきます。そのことを信じて自分自身が子どもたちのよいお手本になっていけるように毎日を過ごしていきたいです。

今年度は昨年度までと比べ、中学校は専任教員の人数が少ない中で一年間がスタートしていきます。その中で、一人ひとりの働きはどんな小さな働きでも大きな力になっていくと思いますので、日々の何気ないことにも一つひとつ向き合い、丁寧にそして徹底して取り組んでいきたいです。ただ、それが毎日、繰り返しになっていかないように、新たにチャレンジしていくことを心がけて一年間生活していきたいです。

新年度の目標

非常勤講師 能條 貴大

2026年、日差しも暖かく、鮮やかな新緑のなか新年度を迎えました。ご入学、ご進級された皆さま、おめでとうございます。今年も音楽を身近なものに感じてもらえることを願っています。

現在、私は聖ステパノ学園をはじめ、ピアノ演奏や指導、合唱団の伴奏、ミュージカルのサポートと、さまざまな形で音楽に携わっています。そうした活動を通して、たくさんの音楽にふれています。近年は合唱曲の素晴らしさを再認識しています。歌詞に込められたメッセージやメロディーの美しさ、そして人の声が重なり合って生まれるハーモニーは、音楽の持つ根源的な魅力が溢れています。今年、より多くの方に合唱曲の魅力を知ってもらい、歌う喜びを共有したいと考えています。そのために、定番の楽曲から珍しい曲まで、色々な曲に挑戦する機会を増やしていきたいです。

新しい曲や懐かしい曲との出会いを通じて心が温かくなるような一年になるよう努めます。

子ども達の力を信じて

教諭 長谷川 誠子

3月に小学校と中学校の卒業礼拝式が行われました。式の中で在校生の送る言葉と卒業生の感謝の言葉が代表によって述べられました。その言葉の中に小学校、中学校共に学校生活の中には良いことも悪いことも嬉しかったことも辛かったこともあったけれども、そういう経験体験が今に繋がり成長できたという言葉がありました。自分たちの素直な言葉が心に沁みました。学校生活においては本当に様々な事が起こります。自分が小学生、中学生の時の事を振り返っても、平坦な道ではなかったと思います。どんな事も子ども達は自分たちで乗り越えてそれを力にしていける存在であることを今回の言葉から強く感じました。そこには保護者や教員、友達などの力もあります。最後は自分自身が積み重ねた力が新しい未来を創っていくのだと思います。

新年度は今まで以上に子ども達一人ひとりの力を信じて、じっくりと成長を見守ってきたいと思います。

子ども達と植えた水仙やチューリップの球根などがきれいな花を咲かせ、新学期を迎える子ども達を優しく温かに迎えています。

今年度も宜しくお願い致します。

わかりやすい

教諭 林 健太郎

皆様ご入学、ご進級おめでとうございます。今年度は、1学期間は育休を取らせて頂きまして、2学期より4年生から6年生の算数の専科を担当させて頂きます林健太郎です。

さて、算数は嫌いとか、苦手だという子が多いですし、大人の方もそう感じているかも知れません。色々理由があると思いますが、一つ考えられるのは、出来たか出来ないかわかりやすいからではないかと思えます。しかし、それは良いことでもあるのですよね。

どんなことでも「出来ない」と感じれば、嫌になる可能性は高くなります。反対に「出来る」と感じる事が出来れば好きになる可能性は高くなります。出来たか出来ないのかがわかりにくければ、自分で判断することができませんよね。つまり、少しでもできるようになれば急に好きだと感じる事が起こりやすくなると思えます。

そして数字は、とてもわかりやすいものだと思います。昨年担任した4年生は、聖書の授業で学習したバベルの塔のせいで、世界中の言葉が変わってしまったことをとても残念がっていました。でも、安心して下さい。数や数字は今でも世界中で共通しています。

この数字を使ってわかりやすい授業が出来たらと思います。よろしくお願い致します。

新年度の抱負

学校図書館司書 平野 朋子

ご入学、ご進級おめでとうございます。小中学校の図書室は、体育館棟二階の音楽室の隣にあります。昼休みの貸し出しは、小中学校は図書室で、中学校はアネックスの図書コーナーで図書委員と一緒にしています。

今年度図書室では、「世界に関心を持つ」をテーマに活動していこうと考えています。例えば、世界の人々の暮らしを紹介した本として、月刊誌『たくさんのふしぎ』ではイスラエルのお母さんのキッチンやみんなが集える広場、家をまもる工夫、世界の納豆、お米の炊き方などがあり、当たり前が場所によって違うことを知ることができます。図書室には他にも、地球の食卓、世界のおまつり、世界の国々、世界の乗りもの、世界の宗教、世界の文字と言葉入門、世界のことわざ、世界のなぞなど、世界の学校、ノンフィクションの異文化エッセイなどがあります。

多様性を知ることが、人々がどういう立場に置かれ、何を考えて生きているのかを考える機会になります。そしてそれと比較して自分を知ることにもつながると思います。世界への関心を持つことで自分の偏った考え方や知らないことを減らしていくことができたら、理解を深めることができると思います。

今年度も、どうぞよろしくお願い致します。

新年度にあたって

教諭 晝間 翔登

聖ステパノ学園で勤めさせていただいて二年目になりました。聖ステパノ学園での生活は思った以上に充実しており、毎日楽しく過ごしています。

昨年度、大斎節の時に私が教員を目指したきっかけをお話させていただきました。

私が小学二年生の時の話です。私のクラスの担任の先生は、いつも優しく子どもたちを包み込んでくれるような先生でした。その先生はとてもマメで、毎週手書きの学級通信で保護者の方に学校での様子を細かく伝えていました。クラスで問題が起きた時は、学級会を開き、子どもが主体的に話し合う場を設けてくれました。また、今では少し考えられないうですが、掃除を約一週間以内に終えることができたなら、ご褒美で先生のお家に招待してくれるというのを企画してくれました。

先生のご自宅に行きたい一心で、必死に掃除をしたことを今でも覚えています。その担任の先生との出会いで、自分もいつかこの先生のようになりたいなと思うようになりました。今年度は小学五年生と中学一年生の国語を担当することになりました。中学生ともかわりが増えることが楽しみです。一年間よろしくお願いいたします。

「目の前のひとつひとつを大切に」

教諭 藤原 佳紀

三月、教室にはたくさんさんの「さよなら」があふれていました。子どもたちの笑顔や何気ない会話、一緒に過ごした何気ない毎日が、どれほど大切なものだったのかを、別れのときにあらためて感じます。見送る背中に、これまでの時間への感謝と、これからの歩みへの願いを込めながら、胸がいつぱいになる季節でした。

けれども四月になると、また新しい出会いが待っています。少し緊張した表情で教室に入ってくる子どもたちと出会うとき、これからどんな時間を一緒に紡いでいくのだろうと、静かな期待が心に広がります。

私の大好きな言葉に、森信三という方の「人は一生のうちに出会うべき人には、必ず会える。それも一瞬も早くなく、一瞬も遅くないときに。」というものがあります。これまでの出会いも、これからの出会いも、すべてが意味のある大切なご縁なのだと思います。

だからこそ、目の前にいる一人ひとりとの時間を大切にし、その瞬間を丁寧に重ねていきたいと思います。この一年が、子どもたちにとっても、私自身にとっても、心に残るかけがえのない時間となるよう、歩んでいきたいです。

今年度もよろしく願います。

新年度の抱負

庶務 松崎 由香

毎年フレンドシップ前の桜を楽しみにしています。今年は暖かい日も多く、三月末ですが綺麗に咲いています。桜を見上げながら新しい一年のスタートです。

先日、久しぶりに澤田美喜記念館の見学をしてきました。常設のコーナーや期間限定コーナーもあり、また以前と違った見方が出来ました。沢山のエピソードも聞かせていただきました。ながら、一つ一つが貴重な古書や器、そして美喜先生の当時の様子を感じられる展示の数々でした。尊敬する行動力です。自身を振り返る良い機会にもなりました。

私事ですが、大きな節目を迎えました。長男が社会人一年生としてスタートします。どう生きるかは自分次第でいくらでも変えられるから。私も一緒にリスタート(笑)今を大切に、素直な気持ちで、背を向けずに進んでいこうと思います。人と人との繋がりを、人々を思いやる心を忘れずに。

今年もたくさんさんのステパノっ子に出会えること楽しみにしています。職員室の事務でお仕事しています。今年度もよろしく願っています。

田んぼのような存在に

教諭 松澤 玲奈

私の自宅周辺には田んぼが広がっています。田んぼは私たちの生活を支えていると同時に、虫や鳥にとっての居場所でもあります。

まだ寒さが残る三月、農家さんがせっせと働いています。田植えに向けて土を掘り起こしたり、用水路をきれいにしたたり。その動きに気づいた小鳥たちが「昆虫はいるかな？」とご飯を探してやってきます。春には、田んぼに水が張られ、アメンボ、鴨、シロサギが次々にやってきます。そして田植えが終わわり、夏本番。待っていましたと言わんばかりのカエルの大合唱。秋になると、稲穂をご飯とする小鳥たちが戻ってきます。まさに、田んぼは虫や鳥たちが自らのタイミンクに合わせてやってくる居場所なのだと感じさせられます。今年も中学三年生の担任を務めさせていただきます。最高学年であり、進路についても考える大きな一年となります。不安な時、支えが欲しい時、背中を押してほしい時。タイミンクは生徒それぞれです。虫や鳥たちがそれぞれのタイミンクで寄ることのできる田んぼのように、一人ひとりの必要なタイミンクで寄り添うことのできる教員でありたいと思います。今年度の抱負とさせていただきます。

新年度の抱負

非常勤講師 松野 瑞樹

最近ではスマホやタブレットでなんでも調べることが出来ます。しかし、調べるだけでなく、自ら、みて、聞いて、感じて、体験して学べるものはとても多いと思います。

スマホやタブレットから得られる情報というのは自分で選んだものしか得られないことが多いです。または、自分好みのものになってしまうことが多いと思います。しかし、アイデアを得るには、他人と意見交換をしたり、他の人がどう行動しているか観察することがとても大切だと思います。

こう思ったきっかけというのが、知り合いの2歳の子とも会ったからです。その子はお絵描きをしていたのですが、色鉛筆を束ねて持って描いてみたり、両手に持って描いてみたりしていました。ある程度成長するところといった絵の描き方をする人はとても少なくなるので、私にとっては「そういう絵の描き方もありだな」と、とても良い刺激になりました。

そういった経験を久しぶりにして、新年度からは児童、生徒の皆さんが意見交換出来る時間を作っていきたいと思っています。また、ネットに頼らずに制作出来るように、アトリエ内で情報収集が出来る環境も整えていきたいと思います。

新年度にあたって

非常勤講師 山澄 智英

ご入学、ご進級おめでとうございます。

さまざまな目標を立てて新年度のスタートを切ったことと思います。

国語科書写では、教材文字の作品化ではなく、文字の原理原則、用紙や書式に合わせて書くことなどを学びます。

例年、授業中の積極的な取り組みとともに、休み時間の姿に感心することが少なくありません。昨年度は小学校の教室に行くと、「道具を出して新聞紙バッグの整理まで終わりました。」と伝えてくれた後、進んで友人の様子に目を向けてくれる人がいました。一学期よりは二学期、さらに三学期とどの学年も休み時間の様子が変わっていくような気がしません。中学校一年生では毎年のように、前の授業の教室から一番に帰ることを決めている、という人がいます。前向きな姿は周囲に良い影響を与えます。中学校三年生では毎時間、授業内容の詳細まで聞く人がいました。

今年度はみなさんのどのような姿が見られるでしょうか。とても楽しみです。

毛筆と硬筆の関連を図り、各教科の学習や日常生活に役立つよう、ひとりひとりの確かな知識と技能の習得に力を尽くして参ります。よろしくお願い申し上げます。

大切にしたいこと

経理 山本 汐音

子どもたちの素直な言葉や真っ直ぐな気持ちに触れるたび、その純粹さに大切なことを気づかされます。同時に、人との関わりの中で、思いやりや気遣いの在り方について考えさせられることがあります。

大人になるにつれ、人間関係はより複雑になり、相手の本心が見えずもどかしさを感じることや、相手の言動にふと「どうしてだろう」と価値観の違いに悩む場面も増えてきました。そうした中で、一度立ち止まり、相手の気持ちや背景に目を向けることの大切さを感じています。そして、その「一度立ち止まる」ためには、心に余裕を持つことが必要です。余裕があることで、目の前の出来事や印象だけで判断せず様々な視点から考えることができます。そのため、時には深呼吸を少し間を置くことで自分の気持ちを整えるようにしています。また、相手との価値観の違いを受け止めながらも、自分はこう在りたいという軸を見失わないことも大切になっています。これからも、心に余裕を持ち、一人ひとりの関わりをよりあたかなものにしていきたいと思っています。

本年度もどうぞよろしくお願いいたします。

抱負

教諭 和田 好江

ご入学、ご進級おめでとうございます。
本年度、小学校に所属し、五・六年の担任をさせていただき、小学校の体育の授業を担当させていただきます。私自身、毎年、この時期は期待で胸が一杯です。毎年新たな気持ちで、授業研究をしながら実践を心がけ、「授業が命」の初心を忘れず一年間努力したいと思います。結果、子どもが楽しく生き生きと運動し、仲間づくりができ、健康生活に繋がるのが一番の願いです。

学園の魅力は、「また来たい学校」「またここで会いたい人がいる」という存在にあると思います。初春、特に三月になると、卒業生が大勢学校を訪ねてくれます。卒業・進学や就職の報告、お子さんを連れての近況報告、など、先生方とお喋りしたり、学校の空気を懐しんだりして過ごしています。子ども達の成長を感じるととても嬉しい時間です。また、先日、旧職員の先生方をご訪問くださって、懐かしくお話させていただいたことがありました。あらためて学園の歴史の中に先人のお働きがあり、その中に自分自身も仲間に入れていただき、責任を感じつつ自分らしく働かせていただきたいと思います。
一年間、よろしくお願いいたします。

STEPHEN'S NEWS

【離任者・着任者の紹介】

○離任者

中学校教諭 石川 瑠一
中学校教諭 露崎 志苑

○着任者

小学校教諭 佐々木 心
小学校教諭 高橋 れみ
非常勤講師(国語) 草山 広子
非常勤講師(英語) 齋藤 央

【お詫び】

2025年度3月発行の『ステパノだより』(295号)にて誤りがございましたことをお詫び申し上げます、訂正いたします。

①小学校卒業生のページ

【誤】小6 O・M ←

【正】小6 S・M

②発行ナンバー表記

【誤】294号 ←

【正】295号

【今年度の主な学校行事】

- 4月 イースター礼拝(10日)
- 5月 授業参観・保護者会(1日)
春の遠足(13日)
中学校(1年～3年)
キャンプ(28～29日)
- 6月 小学校(1年～3年)
森のお泊り(29～30日)
小学校(4年～6年)
キャンプ(10～12日)
- 9月 音楽会(25日)
ステパノまつり(5日)
創立記念礼拝(18日)
- 10月 運動会(10日)
中学校(1年～2年)
秋の遠足(21日)
小学校(1年～5年)
秋の遠足(27日)
- 11月 修学旅行(小6・中3)(28～30日)
授業参観・保護者会(4日)
収穫感謝礼拝(20日)
- 12月 クリスマス礼拝(16日)
クリスマス祝会(17日)
マラソン大会(21日)
- 1月 授業参観・保護者会(9日)
- 2月 中学校卒業遠足(2日)
ステパノカップ(3～8日)
- 3月 中学校卒業礼拝式(12日)
小学校卒業礼拝式(18日)

募金寄付申込者ご芳名

心からの感謝を込めてお名前を掲載させていただきます。ありがとうございました。

2025（令和7）年4月1日～2026（令和8）年3月31日



■一般寄付			
花輪正浩 様	30,000円	横浜教区銚子諸聖徒教会 様	10,000円
七重会 様	30,000円	F.M 様	100,000円
中林三平 様	50,000円	関屋恒平 様	5,000円
倉石 昇 様	10,000円	菅 賢一 様	100,000円
高橋 保 様	30,000円	立教女学院同窓会 様	100,000円
森田利光 様	1,000,000円	■ステパノまつりお祝い	
戸井田和彦 様	1,000,000円	富塚 開 様	10,000円
笹尾和子 様	10,000円	■運動会お祝い	
右田実範 様	30,000円	泉脇茂太 様	10,000円
樋端岳明 様	30,000円	二挺木優子 様	10,000円
久保田成歩 様	10,000円	■クリスマスお祝い	
立教小学校 様	100,000円	(有)ユニ電子工業 様	10,000円
村田淳一 様	30,000円	加藤和子 様	10,000円
K.K 様	20,000円	■卒業お祝い	
大磯クリスマスキャロリング委員会 様	10,000円	草山広子 様	10,000円
土屋千絵 様	10,000円	■チャペル献金	
江川節庫 様	10,000円	咲間直人 様	10,000円
日本キリスト教団大磯教会 様	5,000円	旧職員一同 様	5,000円
立教女学院藤の会 様	200,000円	■感謝	
吉田 満 様	10,000円	七重会 美登利会一同 様	清拭用タオル 100枚
H.S 様	300,000円	泉脇茂太 様	ステパノまつり やきそば麺、粉末ソース 300食
■特別寄付		咲間まり子 様	世界大百科事典 35冊
■ホール		木村凜香 様	プロジェクター等 一式
藤吉公子 様	50,000円	福田良昭 様	DVD BOOK 海の武士道 1冊
二十歳の夏出航のコンサート実行委員会 様	50,000円	相川奈緒子 様	カブト虫幼虫 77匹
三井ボランティアネットワーク事業団 様	50,000円	オリーブの木キリスト教会 様	アドベントカレンダー 105冊
明治大学大磯駿台会 様	50,000円	立教小学校 様	カレンダー 100冊
三芳容子（音遊楽） 様	50,000円	立教女学院小学校 様	カレンダー 100冊
■体育館棟建築基金		広島テレビ放送(株) 様	おりづる平和カレンダー、「いしぶみ」 書籍
咲間直人 様	10,000円	リネックス(有) 様	絵本「かん太くんとベベロちゃん」 4冊
立教女学院キリスト教センター 様	100,000円	井口一世 様 (株)群馬銀行 様	チャペルステンドグラス 1枚
五十嵐正一 様	10,000円	エリザベス・サンダー・ホーム 様	The LEAST of THESE Miki Sawada and Her Children 2冊
竹中拓馬 様	5,000円	ステパノエンジェルズ 様	ホール用座布団 10枚
下津彩香 様	100,000円	菅家工務店 菅家芳助 様	表札用檜 2枚

ご寄付戴いた方のご芳名を基本的に受付順に掲載しております。



ステパノだより

SAの部屋

2026年

4月号

保護者の活動であるSA（ステパノ・エンジェルズ）も新たな年度を迎えました。今年度のSA役員代表からのご挨拶と、各委員会代表からの活動内容紹介をお届けします。

【SA役員】

「自分を愛し、人から愛される人に」入学前に聞いたこの言葉が、今も心に残っています。さまざまな思いを抱える子どもたちが、自分を信じ「自分ならできる」と思える心を育ててくださっている先生方に感謝し、学校と保護者をやさしくつなぐ存在でありたいと思います。SA役員は代表・書記・会計各二名ずつ計六人（小四・小六・中一・中二保護者）で活動します。一年間どうぞよろしくお願ひします。

【絵本の委員会】

小学生を対象に大型絵本や紙芝居、絵本の読み聞かせをしています。今年度は三人（小三・小四・中三保護者）で活動します。図書室に集まり、いつも頑張っている子どもたちに、ほっと一息ついてもらえる時間になれば、本を好きになってもえたら嬉しいと思います。ながら活動しています。是非ご参加ください。

【花そうかい委員会】

学校とSA同士の温かな交流の場をつくることを目的とした委員会です。今年度は二人（中一保護者）で活動します。昨年に引き続き、聖ステパノ学園についての学びや、給食試食会など、SA同士の交流の場を企画予定です。皆さまのご参加をお待ちしています。

【まつり委員会】

毎年九月に開催されるステパノまつりでの、SAブースの企画・運営を行います。今年度は二人（中一保護者）で活動します。例年、駄菓子屋とくじ引きを出店し、子どもたちで大変賑わうブースとなっています。当日お手伝いしてくださる方々を募集する予定なので一緒にステパノまつりを盛り上げていきましょう。

【SAの部屋委員会】

本コーナーの記事づくりを担当します。今年度は、二人（小二・小三保護者）で活動しま

す。子どもたちの学校生活の様子や、SAの活動の紹介などを保護者の視点で切り取り、本コーナーを通じて皆さまにお届けできるよう、制作活動に取組んでいきます。皆さまに楽しく読んでいただけたら嬉しいです。

◎その他、ベルマークの回収や、制服のリサイクル販売などを行う「リサイクル委員会」の活動も予定しています。ご協力をお願いします。

【編集後記】

新年度が始まりました。今年度もよろしくお願ひ致します。今年度は今まで以上に内容の充実を図るために、教職員の中でアンケートを行いました。その集計結果を踏まえながら今まで皆さまに喜んでいただけるような記事を掲載していきたいと思ひます。

皆さまからも「このような記事が読みたい」「ステパノのこんなことを知りたい」というご希望がありましたらステパノだより編集委員会までご連絡をいただければと思います。

代表者 校長 上戸 基夫

発行者 聖ステパノ学園小学校・中学校

ステパノだより編集委員会

〒255-0003 神奈川県中郡大磯町大磯868

TEL 0463-611-1298

FAX 0463-611-9739

<http://www.stephen-iso.ed.jp>

二〇二六年四月十八日（土）発行第296号